

青森田中学園報

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園



特集：翔麗祭



学園創立70周年

vol.97

目次

特集:翔麗祭
青森ねぶた祭

青森中央学院大学

- ・前学期学位記授与式挙行
- ・普通教命講習
- ・COC+ 活動について
- ・雪下桜乃会
- ・ドローンを活用した観光情報発信
- ・公開講座「地方創生」を考える
- ・あきたスマートカレッジ
- ・加藤澄教授書籍紹介
- ・加藤澄教授ADOS-2ライセンス取得
- ・国際交流センターより
- ・地元で働く卒業生との交流会に参加して
- ・子育てファミリーサポート塾
- ・グローバル社会と文化
- ・「ひらめき☆ときめきサイエンス」開催
- ・サークル・ライブ
- ・ゼミ探訪
- ・私の1冊
- ・OB 通信
- ・学生記者発

青森中央短期大学

- ・学園創立70周年記念創立記念行事運動会
- ・タイ留学体験記
- ・地産地消弁当レシピ考案
- ・「進め! 青函連絡船」への参加
- ・シグマ・ソサエティ認証式
- ・和食をあげようクッキング講座
- ・日常を楽しむデッサン教室
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んでほしいこの1冊
- ・マレーシア留学生との座談会
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校

- ・ゆかたうん・あもり2016
- ・職場実習を終えて
- ・コラボレーションファッションショー
- ・職業体験フェア
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

学園共通

- ・キャンパスイルミネーション
- ・大地連携ワークショップ
- ・開催行事案内
- ・「ワンチャンバス」実験運行

翔麗祭 ~あばれんボーイ

9月17日(土) 18日(日) 開催



かけあがレディ~



(撮影: 学生記者 玉木 里奈、太田 喜也)

青森ねぶた祭り

子どもねぶた出陣



青森中央学院大学ねぶた参加



青森中央学院大学

前学期学位記授与式挙行

9月14日、青森中央学院大学前学期(留学生6名、日本人1名)の学位記授与式が、本学7号館713教室において行われた。学生には学士(経営法学)の学位が、花田学長から一人一人丁寧に手渡された。

TAN CHIEW THENG (タン チェウ テン) さんによる歓送の言葉に続き、卒業の言葉が、PHAM THANH HUONG (ファム タイン フォン) さんによって述べられた。4年間にわたる留学期間について、この留学が自分にとってどれだけ意義を有するものかわかる、思いのこもったものになっており、また非常に素晴らしい日本語能力も披露された。

式典後、7号館のフリースペースに場所を移して、祝賀会が催された。石田理事長による具体的な名前を挙げての祝辞の後、内山大学院研究科長による乾杯の音頭を皮切りに、およそ1時間半にわたり、様々な話題について歓談がなされた。ここでは、慣例により、留学生自身の言葉による抱負も示された。(経営法学部長 小俣 勝治)



COC+活動について

本学は、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業」において、青森ブロックのブロックリーダー校として、地域で生活し、地域で働き、地域創生に取り組む人材育成をめざした各種事業をおこなっている。

共育型インターンシップ、スタート

共育型インターンシップとは、「地域創生人財」を育成する教育プログラムとして本学が中心となって推進している事業である。

本学初の共育型インターンシップとしてNHK青森放送局のインターンシッププログラムが採用され、本学経営法学部3年の学生4名が参加した。8月8日から9月2日まで、NHK青森放送局において地域発ドラマ「進め!青函連絡船」(9月21日、NHKBSプレミアムで放送)の若者向けの番組プロモーションに取り組むという内容で、学生たちは、NHK概要や青森放送局の現状を学んだほか、課題設定、課題改善のための企画立案、提案書作成、提案会議、実施計画の作成などの実務経験を学び、函館市や学園祭での番組PR活動を行った。また、NHK総合テレビ「あっぷるワイド」への出演(9月1日)、「あっぷるラジオ」の制作体験(9月2日)を経験し、放送当日の昼には、学校から生中継で全国へ向けて視聴を呼びかけた。

普通救命講習

10月29日、東消防署職員2名を講師に招き、今年度第2回目の「普通救命講習」が行われた。今回は、附属幼稚園含む学園教職員7名と、運動部や防災士資格をめざす経営法学部生など26名の学生、合計33名が参加した。

まず初めに、救命活動の意義と方法をかい摘んで説明を受け、一般人としての知識と実践の重要性を学んだ。引き続きのAEDを使っての心肺蘇生法の実演では、一人一人が講師の模範実演に倣って、真剣に蘇生法に取り組んでいた。

参加した一人の学生は、「実際に人が倒れている現場に居合わせたらAEDを使って今日のようにできるかどうか不安だが、いい勉強になった。いただいたテキストで復習して忘れないようにしたい。」と話していた。なお普通救命講習受講者は、救命技能を有すると記された修了証が発行されることになっている。



雪下桜乃会

雪下桜乃会は、前身である「新町学び舎プロジェクト」での活動を踏まえ、より幅広い活動の展開を目的として、平成26年に公認学生団体として組織されました。メンバーは大学・短大の垣根を越えて構成され、各種イベントに参加することで地域活性化への寄与をめざしています。

主たる活動は、主力商品であるジェラートを軸とした経済活動であり、タイ産マハチャノマンゴーを原料とした「日本でここだけ」のオリジナル・ジェラートは、多くのお客様から好評をいただいています。また今年度は、CSR活動に力を入れ、「おもてなし」としてのねぶた祭り期間の新町通り清掃活動と、キャンパス・イルミネーションへの大幅参加も行いました。

来年度は、新商品の開発と展開、CSR活動の充実に努め、会の更なる発展と会員の大きな成長をめざしていききたいと思います。(代表:熊谷 樹 副代表:新岡 麻未)



公開講座『地方創生』を考える

7月2日、地域社会活動委員会は中央大学法学部教授で、政府の成長戦略実現会議委員などを務められた宮本太郎氏を迎え、「『地方創生』を考える一孤立と排除を生まないまちづくり」と題して、特別講演会を開催した。

講演では、高齢者や生活困窮者といった支えられる側とそうした人たちを支援する支える側が双方で支え合っていくことの大切さが説かれた。また、全国各地の事例が紹介され、地域活性化の可能性について語られた。参加した市民や学生約200人は熱心に聞き入っていた。



ドローンを活用した観光情報発信

地域マネジメント研究所では、青森県から委託されている「あおりツーリズム創発塾」で若者などによる観光情報発信力の向上を目指すプロジェクトを実施している。下関商工会議所の佐々木氏、千歳観光連盟の小島氏に講演をして頂き、インターネットのホームページとツイッターやフェイスブックなどのSNSとの連動、リアルな観光案内所や物販施設などとの効果的な連携方策などについて学んだ。

また、学内の新免先生に最近のSNSの動向、木村先生にはホームページの動画情報メンテナンス法について講義して頂いた。今後、ドローンによる空撮体験と情報発信を予定している。(経営法学部教授 内山 清)



あきたスマートカレッジ

今年度初の試みとして、秋田県教育委員会が主催する「あきたスマートカレッジ」との共催で公開講座を開催した。初回は、秋田市にある秋田県生涯学習センターにおいて、本学大学院から大泉光一教授が講師に招かれ、「伊達政宗の陰謀」と題された講演が行われた。

講演では、大泉教授がライフワークとして、自らヨーロッパや中南米等へ赴き取得した一次資料を基に、調査・研究を進められた慶長遣欧使節の目的について解説された。

参加した多くの市民は興味深げに耳を傾けていた。



**『サイコセラピー日本語臨床言語論—言語研究の方法論と臨床家の言語トレーニングのために』
(2016年明石書店刊：ハードカバー・全336頁)**

経営法学部加藤澄教授の『サイコセラピー日本語臨床言語論』が出た。2009年に出された『サイコセラピー面接テキスト分析』では、サリヴァンの面接トランスクリプトという歴史的資料を入手し、世界で初めて分析を施している。この歴史的資料を掘り起こし、サイコセラピー臨床言語論という分野を新たに切り開こうとした点を、日本の精神医学の最高権威である中井久夫先生が評価され、序文を寄せられている。以来、日本語の臨床言語論を志し、この度、その願いをかなえられた。

本書は、言語に関心のある臨床研究者にとっては方法論として、そして臨床家の言葉のトレーニングにおいても極めて有用である。

なお、本書の書評は、図書新聞、医学学会誌、東奥日報等で紹介され、また、図書新聞では「先駆的著作」として紹介されている。



加藤澄先生、自閉症スペクトラム障害診断のライセンスを取得

青森中央学院大学長 花田 勝美

言語やコミュニケーションの障害をみる「発達障害」性の疾患は教育の現場でも見過ごせない現状になっています。周辺疾患を含めこれらの疾患群は近年「自閉症スペクトラム障害」(ASD)と称されています。複雑な要素を含む ASD の診断には高度の知識と技術を要しますが、この度、本学経営法学部加藤澄教授は、ASD の診断に関しては世界で最も信頼性が高いといわれる手法 ADOS-2 (認定機関:米国 WPS) のライセンス (臨床用 [2014年取得] とリサーチ用の両用) を取得されました。カナダ、カルガリー大学でのトレーニングと米国 ASD 施設での実習を経て、難関の資格試験を通りました。これにより、臨床応用のみならず質の高い研究論文が本学から発信されることを期待しています。なお、このライセンス取得者 (リサーチ用) は日本でも未だ少なく 10 名に満たないということです。



国際交流センターより

【台湾・国立台北科技大学と協定締結】

6月17日、青森中央学院大学は、台湾の国立台北科技大学と協定を締結し、今後介護や福祉分野での協力・交流や共同プログラムの実施に関して連携していくことになった。

8月には、共同プログラムの第一弾として、台湾から1名の研修生を受け入れ、介護・福祉施設での見学実習を行った。



【海外留学・海外インターンシップ(タイ・台湾)】

夏期休暇期間中、青森中央学院大学経営法学部生が海外留学に、青森中央短期大学幼児保育学科生が海外インターンシップにチャレンジした。短期間の留学ではあったが、高いモチベーションで出発した5名は、充実した有意義な経験ができた。

なお、短期大学生1名には、学内の海外留学奨励費(50,000円)、経営法学部生4名には日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金の受給証明書(60,000円または70,000円)が留学前に手渡された。以下、参加学生である。

タイ・モンフォート・カレッジ:
小笠原叶子(幼児保育学科1年)
タイ・泰日工業大学:
蒔苗美里(経営法学部3年)
台湾・南台科技大学:
玉木里奈、山本晴己、
工藤明日香(全て経営法学部3年)



【未来をつくる人財育成プロジェクト開始】

小中高校生を対象に将来のグローバル人材を育成することを目的とした「未来をつくる人財育成プロジェクト~「わ」も「な」も地球人~」が、公益財団法人中島記念国際交流財団の助成を得て、平成27年度に引き続き開始された。

このプロジェクトは、青森中央学院大学(国際交流センターと留学生)とコーディネーターを務める市民による国際協力実行委員会(AICC)が連携して、青森市内の小中高校で異文化理解講座等を行うもので、今年度も多くの学校で実施することが予定されている。



地元で働く卒業生との交流会に参加して

看護学部3年 笠井 瑞穂

交流会では、就職活動や就職試験、看護師国家試験など、幅広く説明をしていただきました。質疑応答の際にも、先輩方は私達の悩みに共感してくださり、たくさんのアドバイスをくださいました。特に国家試験対策では、早めに対策を始め、繰り返し過去問を解いて、知識を確実なものにする必要性を再確認しました。今回の交流会は私達の励みとなり、非常に有意義な機会になりました。



グローバル社会と文化

7月9日、人間探究科目で開講している「グローバル社会と文化(担当:北原かな子教授)」の学外実習が行われました。この授業では、テキスト『津軽の近代と外国人教師』(岩田書院、2013)に沿って、明治期に津軽地方にやってきた外国人教師たちについて学んできました。今回の学外実習は、講義内容の中から①明治7年に若いアメリカ人教師マックレーが書き残した弘前城の記述を実際に確認する、②明治8年に弘前に設立された日本基督教団弘前教会の歴史を知る、③明治期に滞在した外国人教師の足跡に触れる、という3点を目的として行われ、弘前市にある東奥義塾外国人教師館や旧弘前市立図書館、日本基督教団弘前教会、そして弘前公園を見学しました。



子育てファミリーサポート塾

「妊婦さんから産後のママ、ご家族が安心して子育てをしていくことができるように!」との願いを込め、本学看護学部教員(助産師)が中心となり、「子育てファミリーサポート塾」を月1回開催しています。

「マタニティヨガ」「ママヨガ」「ベビーマッサージ」「沐浴」「楽しい子育て・孫育て」等、ママだけでなくご家族も参加でき、講座終了後は個別相談もできます。今年度後半の予定は、平成29年2月19日、3月12日(いずれも日曜日10:00~11:30)です。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。興味のある方は、yoshiko-takahashi@aomoricgu.ac.jp(高橋)までご連絡ください。(看護学部准教授 高橋佳子)



「ひらめき☆ときめきサイエンス」開催

9月4日、独立行政法人日本学術振興会(JSPS)と青森中央学院大学の主催による「ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~」が開催されました。この企画は、科学研究費補助金(科研費)が交付されている研究を、若い世代に紹介しようとする試みです。

本学では看護学部の北原かな子教授が代表を務める研究をもとに「音楽で学ぶ青森の近代-幕末明治の音楽を体験しよう-」とのテーマを構成し、市内の高校生23名が参加しました。講座では、江戸時代の武士の演奏や、明治時代の元武士の音楽に関する活動について学ぶとともに、日頃接する機会の少ない「琴(きん)」を実際に演奏したり、明治時代の音楽の教科書を歌ってみるなど、積極的な参加で楽しいひと時を過ごしました。



サークル・ライブ～アンサンブルサークル～

今回はアンサンブルサークルを紹介する。アンサンブルサークルは現在、男女19名で活動している。練習は基本的に火曜・木曜の週2日、921教室で行っている。コンサート前になると、ほぼ毎日練習しているそう。

指導者は特におらず、学生同士で指導し合いながら練習して、お互いを高め合っている。また大学内だけでなく、青森公立大学や青森県立保健大学の他の県内の大学生と「ポムジュール吹奏楽団」を結成していて、合同で練習しながらコンサートを開いたりしている。

楽器は自分達で持参している人もいるが、学校側でも貸出しもしているの、初心者も安心して練習に参加できる。サークルでは演奏機会を増やしていきたいという思いがあり、依頼があればどこにでも行きます!と話していた。

アンサンブルは演奏する側も聴く側もおもしろいので、ぜひ一度練習風景を見てみてはいかが? (学生記者:花田 茉央)



私の1冊

経営法学部 新免 圭介 先生
『綾瀬はるか「戦争」を聞く』

TBS テレビ『NEWS23』取材班 編 (岩波書店,2013)

この本はTBSテレビ(JNN系)の報道番組である『NEWS23』のシリーズ企画コーナー『綾瀬はるか「戦争」を聞く』の書籍化である。

冒頭、広島市出身である女優・綾瀬はるかさんが2005年、自身の祖母に取材した時に聞いた、祖母の姉の話から始まる。それまで祖母は、原爆で亡くなった姉の話、綾瀬にしたことがなかった。戦争を起こさせないためには、「女性が強くなれば。」という祖母。祖母への取材直後、綾瀬は広島平和公園にある原爆資料館を訪れる。そして時を経た2010年、3年間にわたる「戦争を聞く」取材が始まる。

綾瀬はこの取材の中で、広島や長崎の被爆者のみならず、沖縄戦やハワイ・真珠湾攻撃の関係者、そして東北大震災で故郷福島を追われた東北地方在住の被爆者を訪ねた。そして我々は、綾瀬を通して、彼ら・彼女らが辛い戦争の記憶を、後世に残そうとする姿に立ち会うことになる。この本は我々に、彼ら・彼女らが今語らねばならない、伝え継がなければならない、と強く思う戦争があったことを思い起こさせてくれる。

ゼミ探訪～井口義久ゼミ～

井口ゼミは、財務会計と経営分析に興味のある方にお勧めです。ゼミでは、主に財務会計と経営分析の知識を活かして、卒業論文の作成のためにレポートを通じて学習しています。特別なテキストはありませんが、毎回授業の内容は先生が詳しく整理してくれます。

前期では、マクドナルドの例を通じて、それぞれが考える観点に立ってレポートを作成・発表し、疑問点や意見を出し合いました。その中で、自分の不足点を直したり、他人の優れる点を勉強することで、ゼミ生同士仲良くなっていきました。

留学生にとって、経営法学の勉強は少し大変です。しかし、井口先生はいつも親切に教えてくださいます。井口ゼミに入ってから1年が経ち、現在はゼミ生とともに有意義な時間を過ごしています。

(経営法学部4年 張 溫馨)



OB 通信



拝啓 青森中央学院大学様

私は陸奥新報社という新聞社で記者として働いています。弘前市に本社を置き、津軽地域に根ざした話題をお届けする新聞で、2年目となった現在は青森市での勤務です。

記者として、どんな出来事でも物事を色んな方面から見ることが大切だと常々思っています。一方の言い分だけで記事を書くようなことはあってはいけないことです。分からないことを分からないままにしないということもです。基礎的なことだと思かもしれませんが、本当に大切なことだと思っています。

どんな仕事でも共通して大切だと思うことは、何事にも自分から積極的に挑戦すること。そのときは「何でこんなものをやらなきゃいけないんだ」「こんなものが何の役に立つんだ」と思っていたことでも、思いもよらぬ形で卒業後に役に立つことがあります。たとえ結果が良くなかったことでも必ずプラスなことに繋がるはず。大学にはキャリア支援のプログラムもたくさんあるので、積極的に活用しないと損だと思います。皆さんは学生時代にしかできない色々なことに挑戦して、残りの学園生活を楽しく過ごして下さい。 敬具

(経営法学部第14期生 吉田 和華子)

突撃! 教えて!先生 その7 佐藤 淳先生に聞く



今回は佐藤淳先生にインタビューしました。先生は行政学、政治学を専門としています。

— 専門科目を学ぼうと思ったきっかけはなんですか?

青森が大嫌いで東京の大学へ進学しました。海外で仕事がしたいと思っていたので、商学部で国際経営のゼミに所属していました。卒業後は、都市銀行に勤めていたのですが、これからの地域のあり方を学びたいと思い、12年勤めた銀行を退職、大学院で学び直しました。その時の研究テーマが選挙の「マニフェスト」でした。

— 学生時代の思い出を教えてください。

学生時代の一番の宝は、サークルやゼミの友人達です。今でも交流があります。サークルは旅行サークルで、「青春18きっぷ」を使ってよく貧乏旅行をしていました。ゼミでは、国際経営のゼミでしたので、ゼミ合宿で、シンガポール、マレー

シア、タイ、香港に企業見学に行ったことが思い出です。バブル真っ盛りだった大学時代、勉強についての記憶はほとんどありません(笑)。

— 休日は何をしていますか?

土日も県内外で講演やワークショップのファシリテータの依頼が入るため、仕事をしていることが多いです。家族サービスがあまりできていないのが悩みです。

— 今後の目標を教えてください。

若い世代がもっと政治や選挙に興味を持ってもらいたいです。11月の青森市長選挙も投票率50%に達していません。若者の政治の意識が高まり、投票率が上がるように、学生達を巻き込んで活動していきたいと思います。

— 本学の学生に一言お願いします。

広い世界を知ってもらいたいと思います。青森だけでなく、全国や世界を視野に。そして多くのことに挑戦し、故郷青森に貢献できる人材に育てて欲しいと思います。(学生記者:花田 茉央)

～若者歩き～

Vol.8

今回紹介するのは、青森市古川にある“quatre cafe”です。

お店の場所は少し奥まったところにあり、ビル2階の雑貨屋さんのさらに奥にあるため、隠れ家的なカフェです。

店内は落ち着いた雰囲気BGMが流れ、広々とした空間の中にソファ席や1人席が用意されているので、友達同士で行っても、1人で行っても、ゆっくりとくつろげます。

メニューは豚の角煮ごはんやBLTサンドなど種類豊富で、ランチタイムの11:30~15:00はセルフのドリンク、スープ、デザートが付きます。また、ドリンクはテイクアウトも可能です。

ぜひ、おしゃれな雰囲気の下で、女子会を行ってみてはいかががでしょうか?

(学生記者:花田 茉央・玉木 里奈)

quatre cafe 〒030-0862 青森市古川1丁目16-2
営業時間 11:00~20:00
駐車場なし ※近くにコインパーキングあり
予算 1人あたり1,500円以内



学友会創立記念祭

6月10日、青森田中学園の創立記念祭として、学友会主催のミニ運動が行われました。学友会では1か月前から種目やルールを決め、参加者募集のチラシを作って呼びかけをするなどの準備をしてきました。当日は多くの学生の他、留学生も参加し、日本人と留学生の新たな交流の場となりました。障害物競争、玉投げ、大縄跳び、バスケットボールの4種目を全15チームで争い、中でも学友会が独自に考えた「玉投げ」では、体育館の中を走り回りながら、背中に背負ったかごにボールを入れあうために、各チームが作戦を練り、様々なアイデアで戦いました。大学では普段体を動かすことが少ない人も多いので、ストレス発散の良い機会になったのではないのでしょうか。学友会はみなさんに大学生活を楽しんでいただくために年2回スポーツ大会を企画・実施しています。もしこの記事を読んで学友会に興味を持ったら、2号館学友会室までお越しください。

(学生記者:玉木 里奈)



青森中央短期大学

学園70周年記念 創立記念行事運動会

6月18日に創立記念行事として運動会を開催しました。今年の学友会の行事目標は、一致団結し協力していくという内容でした。そこで幼児保育学科、食物栄養学科、専攻科の各クラスでチーム一丸となり優勝をめざせるような運動会としました。今年の競技は、長縄跳び、障害物走、ドッジボール、リレーを行い本気で競い合いました。

運動会を開催するにあたり、学友会メンバーが中心となり先生方や学生、事務局の方々にご協力をいただいて実行することができました。また、去年の反省を活かし、どうしたらよい運動会になるのか追及して臨むことができました。

今年は例年通りにはいかず、雨が通り過ぎた後だったため、サブグラウンド隣の芝生で行うこととなりました。トラブルに見舞われましたが、多くの人の臨機応変な対応により、最高の運動会を作り上げることが出来ました。勝ち負けに関係なく短大全体が一つになれました。私自身もとてもやりがいを感じることで成長できました！協力してくださったみなさま、本当にありがとうございました。

(学友会会長 花田 匠)



タイ留学体験記

幼児保育学科1年 小笠原 叶子

私は今年の8月に、タイのチェンマイ市にあるモンフォート・カレッジ高校に、日本語教師のアシスタントという形で留学しました。留学経験のない私でしたが、同じキャンパス内の学院大学の先輩方やタイ語講座を行ってくださった留学生のおかげで、楽しい留学を送ることができました。

タイでは、自分が教える側に立つことにより、客観的に文化や教育の違い、他国から見た日本のイメージを知ることができました。また、様々な価値観をもつ生徒との交流を通して自分の視野が広がり、多文化への興味・関心を深めることができました。

この経験を通して、多文化保育が重要視されている今、『お互いの違いを理解し、受け入れる』ことが大切なのだ、身をもって感じました。来年度はぜひ、多くの短大生に参加してほしいです。



2年間関わった産学官連携による地産地消弁当のレシピ考案

食物栄養学科2年 小野寺 布葵

私は地域に関わるような、地域貢献活動に積極的に参加したいと思い、1年生と2年生の2年間、お弁当作りに携わってきました。

今年は、青森県産品を使った「うまいもの弁当」ということで、県産品や青森の郷土料理をアレンジしたおかずを考案しました。県民の皆さんに改めて青森の魅力が伝わったお弁当になったと思います。また、お弁当の品目が多くて、見ても食べても楽しめるお弁当を作ることができました。青森の食材を、どのように利用して料理すればいいのかなどの工夫を考えるのが大変でしたが、勉強にもなりました。また、お弁当の開発ということで、商品開発の過程も学ぶことができたので、卒業してもこの経験を糧に頑張りたいです



青森発地域ドラマ「進め！青函連絡船」への参加

9月21日にNHK BSプレミアムで放送された青森発地域ドラマ「進め！青函連絡船」において、食物栄養学科2年生の有志学生12名がフードコーディネートを担当し、撮影現場でドラマの重要な「カギ」となる「海峡ラーメン」を調理しました。

28年前に廃止された青函連絡船の名物であった「海峡ラーメン」を復活させるため、まずは函館の青函連絡船の元料理長だった方を訪ね、調理工程を見せていただきながら作り方を教わりました。学校に戻ってからは授業の合間や放課後などの空き時間をやりくりし、何度も試作を重ねて納得のいく「海峡ラーメン」を復活させることが出来ました。

ドラマの撮影現場での調理という、難しいながらも普段経験することのない貴重な機会をいただき、様々な面からの「食の提供」について考えるきっかけになったのではないかと思います。



公開講座「和食をあげわうクッキング講座」

10月15日、今年度2回目となる公開講座「和食をあげわうクッキング講座」が開催されました。この講座は、郷土料理や基本的な和食の作り方を学ぶことができる内容となっています。

メニューは実りの秋にピッタリの「きのこ炊き込みご飯」「さばのみそ煮」「津軽のおから炒め」「にんじんの白和え」の4品でした。デモンストレーションでは作り方の他に各料理のポイントも紹介され、参加者はメモを取ったり、質問したりとても熱心な様子が伺えました。

今回、郷土料理としていわしの入った津軽のおから炒めが紹介されましたが、初めて食べたという方も多く、「おいしいので家でもぜひ作ってみたい」と大変好評でした。本講座を通して、郷土料理や和食の良さを知る機会になればと願っています。



青森中央短期大学シグマ・ソサエティ認証式

シグマ・ソサエティは、無限の可能性と才能を持つ短大生・大学生のために、ソロプチミストが学生に活動の機会を与えるプログラムです。

今回、障害のある子どもを対象とした運動教室「リンゴの輪」を継続してきたセルクルサークルと、知的障がいや発達障がいを持つ方々へのサッカー等を指導・支援してきたSSSサークルの活動が認められ、認証式が行われました。認証式では、学生一人ひとりに会員ピンが手渡されシグマ・ソサエティ精神に忠誠を誓いました。また、幼児保育学科2年 武田菜那さんが「シグマ・ソサエティの名に誇りと責任を持ちボランティア活動を積極的に進めていきたい」と述べ、決意を新たにしました。

(幼児保育学科学科長 大沢 陽子)



日常を楽しくするデッサン教室

今年度のデッサン教室は、平日、金曜日の夜・全4回という形で開催しました。初心者の方、少しデッサンの経験のある方、一般の方や学生と幅広い方がたに集まってくることができました。第一回目は、「デッサンを描く用の鉛筆は何故、鉛筆の芯を長く削り出すのか？」というところから始まり、「形を見る。」をテーマに、モチーフを前に参加者の皆さんは形を正確に取ろうと無言で真剣に紙とモチーフを見比べていました。この何気無い「見る」という行為がデッサンの一番の重要な要素で、全4回の講座が終わった時に「まだ描けるのになあ。」と想像していただければ幸いです。

第二回目からは、「陰影を見る。」第三回目は「遠近を見る。」「素材を見る。」などをテーマにし、第四回目で完成をめざしたいと思います。皆で長時間一つの物に集中するという講座の空間にある心地よい静けさを体験して下さい。



先生の自分史「私のめざす教員像」

食物栄養学科 外崎 秀香 先生

現青森市浪岡で生まれ、五所川原で育ちました。小学校から高校、そして大学院まで、家族はもちろんのこと、友人や先輩・後輩、恩師の先生に大変お世話になり、人に恵まれていたと思います。大学院卒業後は、果物の栽培と販売をしている会社に就職しましたが、大学の教育現場で働きたいという強い思いから転職し、現職に至ります。

食物栄養学科の助手として、食品学実験や食品衛生学といった実習に携わってから、1年と半年が経ちました。大学教員として、また栄養士養成校の教員として、学ばなければいけないことがたくさんありますが、学生との関わり合いを模索しながら、忙しくも楽しい毎日を過ごしています。

めざす教員像は、「何事でも頼りになる先生」です。友人や恩師からいただいた、温かい心遣いや励ましの言葉を思い起こしながら、多感な時期にある学生の悩みや相談のひとつひとつに丁寧に、そして寄り添いながら応えたいと思っています。



研究室を訪ねて～時本研究室～

私達は、丁寧に指導をしてくださる時本英知先生のもとで、特別研究に励んでいます。

私達のグループでは、主にADHDの子への理解や付き合い方について研究を進めています。研究が思うように進まず、私達が悩んでいる時、時本先生は研究の進め方のアドバイスや細かな指導をしてくださいます。また、学生同士でも意見や情報を交換・共有し、各々の研究に楽しく取り組んでいます。お互いの研究の状況や疑問についても考えを伝えあうなどして、良い雰囲気の中で研究を進めています。私達は、子どもにも分かる伝え方は大人でも理解しやすいと考え、多くの方が理解し、受け入れやすいような論文を作成するよう心がけています。

2年生になり、ミュージカルや実習、就職活動と忙しい中ではありますが、より良い発表ができるよう努めていきたいと思っています。研究に携わってくださった方々や先生、友人、何より自分自身の向上の為にも研究を深め、発表に臨みたいと思います。(幼児保育学科2年 佐藤 真由香)



読んで欲しいこの1冊

幼児保育学科 前田 美樹 先生

『まど・みちお画集 とおいところ』

まど・みちお 絵と詩 (新潮社, 2003)

「まどさんの詩は星、絵は星を浮かべる宇宙」この言葉は、童謡「ぞうさん」の作詞を手がけた詩人：まどみちおさんの画集「まど・みちお画集」(新潮社)の表紙に添えられた詩人：谷川俊太郎さんの言葉です。まどさんの心に溶け込んでくるやさしい言葉の奥に潜んでいる捉えようのない大きな世界。もっと自由にもっと深く、その絵は、目で感じられる存在としてそこにあります。「感じるだけでいいんだ」という安堵感は、作品に添えられた短いポエムとの相乗効果で、私たちが深い世界に誘ってくれます。

忘れかけている日常の美しいことや昔の楽しい事を思い出させてくれるまどみちおさんの言葉と絵、そんな素敵な作品に出会える大好きな一冊です。



マレーシア留学生との座談会

食物栄養学科のAO入学者に対し実施するAO入学前サポートプログラムでは、現在、「マレーシアの魅力について調査、報告する」ことを目標として、ゼミ形式の指導を行っている。第2回目となる11月19日では、インターネットや書籍などでは知れない「生きている情報」を得る良い機会とすべく、マレーシア留学生との座談会を開催した。青森中央学院大学留学生のシム・レさん、チュア・ソク・ブオンさん、ユ・ディアン・インさんの協力のもと、食生活、祭りなどを含む年間行事、治安、観光など様々なジャンルに対し活発な意見交換が行われた。

参加者からは「生の声を聞くことができ有意義で楽しかった。」「日本と似る部分もあって親近感がわいた。」「日本の印象などを聞けて勉強になった。」などの感想が聞かれた。今回のプログラムは参加者にとって非常に有意義なものとなり、最終課題であるレポート作成に向けた意欲の向上につながったようである。



それいけ幼保！探検隊 Vol.4

～幼児保育学科46期生卒業記念ミュージカル

「青い鳥」—幸せのひかりを探して—

幼児保育学科は授業の一環としてミュージカルの制作と発表を行っています。今年はメーテルリンクの作品の中でも有名な「青い鳥」を題材にしました。この作品は二人の貧しい兄妹チルチルとミチルが幸せの青い鳥を探すために旅に出るというお話です。

この作品をつくるために、舞台で使う大道具・小道具を制作する班、演技に使う衣装をデザインする班、楽器演奏を担当する音楽班に分かれました。自分たちで一からシナリオを考えたり、舞台のセット等の演出も考えたりするので、学園祭での発表を終えたときには、とても感動しました。2年生全員の思いが伝わってくる作品になったと思います。

これからは、12月17日のアウガでの卒業公演に向け、ますますの向上をめざして練習に励んでいきたいです。観客の皆さんにもっと感動を与えられるような演技ができるようこれから頑張っていきますのでどうぞご覧ください！

(学生記者：幼児保育学科2年 青澤 奈那)

ちょっとした、ツブヤキ。 Vol.4

こぶし会館は、違う学科の人たちも含めたくさんの友達と生活ができてとても楽しい場所です！

寮生活をする学校で授業で出た課題でわからないことや、相談したいことがあった時にも、同じ学科の友達の部屋に行ってお話をすることが出来ます。また、休日などには、一緒にお昼ごはんを作ったり、ショッピングしたりすることができるのでとても楽しいです。忘れ物をした時や授業の空き時間にも便利なお昼ごはんを作ったり、ショッピングしたりすることができるのでとても楽しいです。忘れ物をした時や授業の空き時間にも便利なお昼ごはんを作ったり、ショッピングしたりすることができるのでとても楽しいです。

また、朝と夜の寮のごはんは、みんなと共同の食堂で食べるので、友達とわいわい話をしながら楽しい時間を過ごしています。

2年間の寮生活でたくさんの人と仲良く過ごすことができ良い思い出になりました。

(学生記者：幼児保育学科2年 武田 菜那)

～こぶし会館ご案内～

青森中央学院大学・青森中央短期大学の女子学生専用学生寮です

部屋数：100室

門限：23時 ※玄関ドアはICカードキーによるセキュリティ付
室内設備・備品：エアコン(冷暖房)・ベッド・洋服ダンス・机・椅子・カーテン・個室電話・Wi-Fi・電気スタンド

1人暮らしのレシピ 番外編

産学官連携による地産地消弁当に関して、学生発のレシピが多数考案されました。完成度が高いのに、他の料理とのバランスから惜しくも漏れてしまったレシピを今回ご紹介します！

おかずしとぎもち (2人分)

【材料】<具>豚ひき肉30g/生椎茸1枚/南蛮味噌15g

<生地>米粉50g/長芋25g/熱湯40g

【作り方】①生椎茸はみじん切り、長芋はすりおろす。/②フライパンを熱し、油をいれてひき肉を炒める。/③肉に火が通ったら南蛮味噌を入れて炒めた後、皿に広げ冷ます。/④米粉をボウルに入れ、菜箸で混ぜながら熱湯を加える。/⑤硬さを見ながら長芋を加えて混ぜる。/⑥「⑥」生地を具を包み、フライパンで両面きつね色に焼く。

★レシピ考案者

食物栄養学科1年 吉田 望華さん

津軽地方の郷土料理「しとぎもち」をおかず風にアレンジしました。生地に長芋を使うため、もちりした食感が癖になる一品です。ピリッとした辛さもポイントです。



第63回日本栄養改善学会学術総会へボランティア参加して

食物栄養学科2年 三津谷 友香

私は今回、9月7～9日の3日間、リンクステーションホール青森を中心に行われた第63回日本栄養改善学会学術総会に、会場スタッフとして参加しました。

青森県で今後行われるのは数十年後であることや、来場者が2,000人を超えるだろうということを知り、重大な責任を感じました。私は、3日間行われる総会の中の2・3日目、会場の照明係を担当しました。発表に合わせて照明をつけたり、消したりといった単純な作業でしたが、演者が発表しやすく且つスライドが見やすい様な明るさの調節、質疑応答の際の照明の操作など会場の雰囲気を作る作業であるため、気が抜けませんでした。特に3日目は、英語で発表を行う会場の担当だったため、照明のタイミングを図ることに苦労しました。

とは言うものの、時間が空いた時には自由に興味のある発表を聞くことができました。運営の手伝いといった普段体験できない裏方の作業に関わり、また貴重な発表を数多く聴くことができ、有意義な体験をさせて頂いた2日間でした。

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

合宿保育



7月20日・21日、大学の体育館・グラウンド・各幼稚園・保育園を会場にして、年長さん156名が集まったの合宿保育が行われました。

一緒にグループでゲームをしたり、協力して扇ねぶたの色塗りをしているうちに、初めてのお友だちとでもすぐに仲良し。色塗りの後はチーム対抗ゲーム大会で盛り上がりました。

ビオトープに出かけて「めだかを見つけたよ!」と歓声をあげたり、きれいな第一幼稚園でおいしいカレーライスをおかわり!したり、暗くなったグラウンドで三思園のみなさんと一緒に盆踊りをしたり、夜空を彩る大きな花火をうっとり見上げたり……いっぱい楽しめました。

そして各園に戻り、お泊まり体験。ふだん暮らしている大好きな園でのお泊まりには心配もなく、でもちょっと違う雰囲気新鮮で、仲良しのお友だちと一緒にのおふとんで過ごした一晩は、忘れられない思い出になったことでしょう。お家を離れて一泊した年長さんはぐんとたくましく成長してお家に帰りました。



先生達活躍しています 第15回

「子ども達の笑顔を力に」

認定こども園中央文化保育園

澤口 聡美先生

中央文化保育園に勤務して2年目を迎え、今年度は0歳児ひよこ組を担当しています。

4月は4人でのスタートでしたが、今では8人になり毎日とても賑やかに楽しく過ごしています。0歳児は月齢によって過ごし方が様々なので、その子のペースに合わせて安心して生活できるように気を配っています。

0歳児の生活は注意を払う場面が多く責任を感じる部分もありますが、それ以上に楽しいこと、嬉しいことがたくさんあります。寝返りができるようになったり、一人でたっちできるようになったり、歩けるようになったり…とたくさん“はじめて”の瞬間のできたよ!見てた?の嬉しそうな笑顔を見ると、とても嬉しく、力が湧いてくるのを感じます。

これからも子どもたちの成長を見守りながら、いつも笑顔で穏やかな保育ができるように努めていきたいと思っています。

「保育教諭として」

認定こども園浦町保育園

佐藤 奈津美先生

保育園に勤務して12年目になりました。以上児・未満児ともに担任経験がありますが、保育教諭は本当

にやりがいのある仕事だと思います。

家庭にいるよりも園にいる時間の方が長い子どもが多く、子どもの日々の成長を間近で感じ、見ることができます。昨日できなかったことが今日はできた、という瞬間を共に過ごせることも多いです。一人として同じ子どもはいないため、時には大変だなと感じることもありますが、子ども達一人ひとりに寄り添い援助しながら、成長に関わっていけることを嬉しく思い、子ども達の笑顔に頑張っています。

私自身、現在二人の子どもの子育てをしながら保育教諭として働いていますが、保育園での経験、子育ての経験を取り入れ活かしながら、これからも保護者の方との信頼関係を築き、子ども達が笑顔で楽しく過ごせる保育を展開していきたいと思っています。

「母として、先生として」

認定こども園附属第一幼稚園

熊澤 円先生

私は、青森中央短期大学幼児保育学科を卒業後、一般企業で2年間働きました。そして、附属第一幼稚園で保育士として勤務することになり、今年で4年目になります。一般企業で接客を通して人と関わることを学び、それが現在、保護者との関わりに活かすことができていると感じています。

今年度は、1歳児を担当しています。毎日楽しく過ごすなかで、乳児期の成長を身近で感じられることができ感動の毎日です。園児達の自己主張や保育者に伝えたいことを瞬時に受けとめ、出来たことはたくさん褒めてあげる保育を、これからも心掛けていきたいです。

二児の母でもある私ですが、家庭では、育児と家事を両立させ、幼稚園ではみんなに信頼される存在となるよう毎日、笑顔で過ごしていきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

幼保連携型認定こども園附属第二幼稚園 溝江 智恵子先生

『ばけばけばけばけ ばけたくん』

池田 明子 ぶん・え (大日本図書, 2009)

『ばけたくんは、くいしんぼう。美味しそうな匂いがすると、ふわふわとんできて、ぱくぱくつまみぐい。キャンディー、いちご、スパゲッティー。夜中の台所で「いただきまーす!」すると、あれあれ…?』

いたずらおばけのばけたくんは、夜中にいろんなものを食べ次々と変身します。最後は、人間に見つかりそうになり、海苔を食べ大変身!

子ども達の大好きなおばけ。そんな大好きなおばけのこの本を、0歳から2歳の子ども達に読むと、初めはドキドキして見ていた子ども達も、読み終わる頃には笑顔がいっぱい。単純でわかりやすい内容ですが、愛嬌やユーモアたっぷりの、このばけたくんの絵本は、子どもも大人も楽しめる一冊です。



青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

ゆかたうん・あおり2016オープニングイベント

7月22日、青森中央文化専門学校では、青森市新町・ベイエリアにて行われた「ゆかたうん・あおり2016オープニングイベント」に参加した。青森商工会議所が主催するこのイベントは、日本の夏を演出する「浴衣」を着て協賛店へ来店すると特典やサービスを受けられる地域活性化を目的とした事業。青森中央文化専門学校の学生は、参加者のゆかたコーディネーターと着付けを行った。また、青森市中心商店街歩道で行われた「オープニングパレード」や、観光物産館アスパムにて行われた「ゆかたコンテスト」に参加し、日本の夏のお洒落を楽しんだ。



青森中央文化専門学校×ドリームタウンALi コラボレーションファッションショーに向けて

青森中央文化専門学校では、10月15日、青森市浜田・ドリームタウンALi正面駐車場特設会場にて「青森中央文化専門学校×ドリームタウンALiコラボレーションファッションショー」を開催しました。ファッション商品販売業振興の活性化、また地域との産学連携・地域社会参加型プロジェクト事業となる本イベントは、トータルファッション科ファッション販売専攻の授業の一環として、今回で3回目を迎えました。

ドリームタウンALi内8店舗様にご協力いただき、各テナントを担当する学生は、PR商品の打合せやコーディネーターの考案をしてきました。開催当日は晴天にも恵まれ、朝から特設会場のランウェイや観覧席を皆で設置。スタイリストとなった学生がテーマ別に発表したスタイリングは、多くのお客様にご覧いただき、好評を得る事が出来ました。



職場実習を終えて～医療事務コース学生レポート～

医療事務コース2年 小野寺 布葵

私は、青森市内の調剤薬局で職場実習を行いました。今回の職場実習で実際に受付に立ち、患者さんと接してみたことで、学校で勉強しイメージしていたこととの違いに気づきました。また、実際に働く環境では、「学校で学んでいることをどう生かすか」が大切になってくると感じました。今までより勉学に励み、就職した際には学んだことを活かせる社会人になれるように頑張ります。



職業体験フェア

6月15日・弘前、22日・青森、24日・八戸において青森県専修学校各種学校連合会が主催する「2016 青森県職業体験フェア『わかる日』」が開催されました。このイベントは中高生の自主的な職業理解を手助けし、県内の学校や企業を紹介することで地元進学・地元就職者増につなげることを目的としたもので、県内の様々な専門学校等が参加し、3会場で1,700人超の入場者がありました。青森中央経理専門学校は「ツアープランナーの仕事」、青森中央文化専門学校は「スタイリストの仕事」の体験ブースを用意し、コーディネーター体験など、学びの内容を活かしたブースで、来場者を迎えました。

「職業教育機関」である専門学校の一部を体験した、来場者は将来の進学や就職を再確認するきっかけになりました。



経理発信情報 Vol.18

～パソコン講座 in 青森県総合社会教育センター～

8月25日と26日の2日間にわたり、青森県総合社会教育センターにてパソコン講座を実施しました。今回はWord・Excelの活用講座と題して、地図つきのポスター作成や家計簿作成などを行い、学生と受講者がほぼ一対一で、時折、世間話も交えながら講座を進めていきました。受講者からは「学生が親切に教えてくれて良かった」などの感想があり、また、学生からは「人に教えることの難しさを実感した」などの感想がありました。普段は教わる立場である学生が教える立場になるという経験は、とても良い経験になったと思います。



おススメ図書 vol.16

青森中央経理専門学校 鈴木 伸吾 先生
『サクラホテル浅草 体当たりおもてなし術
一年間1万人の外国人客が泊まる宿』
鎌田智子著（講談社、2015）

この書籍は、日々繰り返される異文化コミュニケーションとトラブルに対応している様子を綴ったエッセイです。観光庁では、2020年には4000万人のインバウンドを目標にしています。インバウンドとは訪日外国人旅行のことで、これからの日本、また青森の観光において、インバウンド対策は重要なテーマです。

この本は、正にインバウンドへの「おもてなし」がテーマで、一つの事柄が見開きで完結し短編で読みやすいです。島国育ちの日本人は、海外に行くところまで、図々しく？大胆に？純粋に？旅を楽しめていないのでは？と文化の違いを感じました。

学生には、旅に出てその土地の有形・無形の「おもてなし」を体感して欲しいと思います。自ら体感した「おもてなし」は、就職活動にも必ず生きてくることと思います。観光業界をめざす学生だけでなく、全分野の学生にこの支配人の「おもてなし術」を参考にしてもらえたらと思います。

ファッション通信 vol.16

～spontaneous～

2016AWは、70～80年代のレトロな雰囲気と、「アニマル柄」や「チェック柄」などの柄を取り入れるのがポイント。春夏に引き続きビッグシルエットに注目ですが、秋冬はアウターでビッグシルエットを取り入れるのが上級者。また、概念にとらわれず、本来の着方とは変えてみたり、あえてバランスを崩してみたり、自由なコーディネートを楽しむのが、この秋冬のテーマです。2wayや3wayで使えるような着回しアイテムなどを活用するのもおすすめ。カラーはレッド系とグレーがトレンドです。メイクも黒っぽい赤系で合わせると今年っぽく決まりお洒落です。



（記事・デザイン画：文化編集部サークル）

卒業生ピックアップ No.28

青森中央文化専門学校 平成26年度卒業
株式会社ストライブインターナショナル GreenParks topic 勤務
ファッションアドバイザー 横嶋 宏美さん

私は青森中央文化専門学校を卒業後、ファッションアドバイザーとして店舗に立ち、接客はもちろん、店頭業務や研修生の教育なども任されています。

ファッション販売専攻では、商品に関する基礎知識からロールプレイング、店舗実習など実践的な事まで学ぶ事が出来ました。特に接客時には自分の言葉で商品の特徴や着用感、素材感などをお客様に伝えられ、在学中に学んできた知識や技術を存分に発揮できていると実感しています。

入社してまだ2年目ですが、私を頼りにしてくれるお客様も増え、遠方からも会いに来ていただいたりと自分の仕事にとってもやりがいを感じます。これからも販売業務のプロフェッショナルをめざし、より多くのお客様に愛されるよう頑張ります。



学園共通

キャンパスイルミネーション

今年も学園敷地内を彩るイルミネーションが登場しました。学園創立70周年を祝う今年は、これまでのキャンパスイルミネーションに加え、新しい彩りとして、附属第一幼稚園の園児たちによるクリスマスツリーが加わりました。

また、イルミネーション構成では、青森中央学院大学の学生10名が配色や設置場所について企画・検討し、学生だけではなく市民の方にも楽しんでいただけるよう、心がけました。

デザインは青森中央学院大学看護学部1年江副寧華さんと伊藤江花さんが担当し、新しい試みとして、5号館前のアーチのところに冬を連想させるよう「つらら」をイメージしたライトを設置しました。シャンパンゴールドの暖かな光が揺れる様子は幻想的です。

イルミネーション全体では、白と青を中心としたイルミネーションでホワイトクリスマスや青森の雪の静けさをイメージし、シャンパンゴールドで温かみのあるアクセントをつけました。15,000球にものぼる光の競演が、通行する方々の目を楽しませています。

12月1日に行われたイルミネーション点灯式では、附属幼稚園園児によるハンドベル演奏、青森中央学院大学アカペラサークルによる演奏が華を添えていました。

今年度は1月15日までの期間中、夕方4時から夜9時までライトアップされました。

多くの方に雪とイルミネーションのコラボレーションを楽しみいただけましたら幸いです。



大地連携ワークショップ

「大地連携ワークショップ」は、文部科学省の平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に採択されたFDネットワークつばさプロジェクトの教育プログラムで、「大」学と「地」域が連携しながら、進取の気性に富んだクリエイティブな人材を育成することを目指して実施されています。

今年度は8月の夏休み期間に、北海道平取町、山形県真室川町、神奈川県川崎市、韓国ソウル特別市・南楊州市の各地域でワークショップが開催され、青森中央学院大学から計5名、青森中央短期大学から計2名の学生が参加しました。

どのワークショップにおいても、地域の特色を活かした体験学習が盛り込まれ、活動の最後には、その地域が抱える問題を学生目線で解決する

提案を実施しました。参加学生は、文字通りのアクティブラーニングを通じて様々なことを学び、気づきを得て、考えたことと思います。

大学間連携共同教育推進事業は、今年度が最終年度となるため、今後のワークショップ開催は未定ですが、連携を通じて、単独の大学では実施が難しい充実した学習が実施できたのではないかと考えています。参加学生は、この学びの体験を今後の学生生活や、社会人生活に役立ててくれることと思います。



「ワンチャンバス」実験運行

学校法人青森田中学園では、青森市中心市街地活性化協議会・学校法人青森山田学園・青森公立大学と連携し、1月16日から21日の6日間、郊外にある大学と青森市中心市街地を結ぶ無料シャトルバス「ワンチャンバス」を実験運行した。

本学園をはじめ、青森市内の高等教育機関は青森駅や中心市街地から離れており、若者が中心市街地を訪れにくい現状がある。今回の運行は、利便性の向上と中心市街地の活性化の可能性を図ることが目的である。愛称となった「ワンチャンバス」には、このシャトルバスの運行が、学生と中心商店街双方にとって「チャンス」となる事を願う気持ちが込められており、本学経営法学部 三上夏佳さんが名付け親となった。

シャトルバスは本学をはじめ市内各地7か所を停車場として一日7便が運行された。6日間で約440人が乗車し、本学園の学生達も大いに活用していたようである。

今後、今回の実験運行の結果をもとに、来年度以降の運行について検討していく。



開催行事案内

青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

●青森中央学院大学看護学部・青森県助産師会共催「子育てファミリーサポート塾」 会場：青森中央学院大学7号館4階 母性・小児実習室

日程	内容	対象
2月19日(日) 10:00~11:30	楽しい子育て・孫育て ～じいじ・ばあばも一緒に～ ☆講座後、個別相談もできます。	妊婦さん 産後のお母さま方 ご家族の方
3月12日(日) 10:00~11:30	ベビーマッサージ ～赤ちゃんに触れ合おう～ 妊娠中の方もどうぞ ☆講座後、個別相談もできます。	

定員：1回につき15名(15組)／参加費：参加一人(一組)500円
お問い合わせ・ご予約：マンマケアまつえ助産院(青森市茶町3-20)

青森中央短期大学

●平成28年度青森県福祉・介護人材確保対策事業「潜在的有資格者等再就職促進事業」 会場：青森中央短期大学

日程	内容	対象
2月25日(土) 10:00~13:00	「口から食べる」を支えるための食事作り2 テーマ「咀嚼・嚥下機能が低下した方の食事作り」 講師：森山 洋美(食物栄養学科専任講師・管理栄養士) 浜中 幸美(食物栄養学科専任講師・管理栄養士) 高齢などで、噛むこと(咀嚼)や飲み込むこと(嚥下)の能力に個人差が現れ始めます。 “日常食”をいつまでも楽しめる食事作りを科学的根拠から学びましょう。	グループホーム職員 訪問介護職員 家族介護をしている方 福祉・介護に興味のある方

●青森中央短期大学 福祉セミナー(平成28年度青森県福祉・介護人材確保対策事業 福祉介護人材参入促進事業) 会場：学術交流会館2階

日程	内容
2月11日(土) 13:00~14:30	松本ハウストーク&ライブ 「統合失調症がやってきた!!」 自ら統合失調症を経験したことを公言し活動しているハウス加賀谷さんと、コンビとして見守った松本キックさんにお話をさせていただきます。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

●オープンキャンパス

日程	内容	対象
2月18日(土) 10:00~16:00	総合ガイダンス、コミュニケーションタイム 体験授業、施設見学	本校に興味のある 学生・保護者



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、3月発行予定の98号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■98号応募締め切り：3月10日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第97号

発行日：2017. 2. 10

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

松島 正起

木村 貴子

坪谷 輝子

岩葉 悦子

中田 尋美

加藤 澄

浜中 幸美

齋藤 明日香

八木橋ひろみ

高橋 晴美

学生記者

花田 茉央 玉木 里奈

太田 喜也

吉田 望華 三津谷 友香

青澤 奈那 武田 菜那